

2012年度JSCA中部支部総会報告

2012年度JSCA中部支部総会が5月16日(水)、名古屋市千種区のルブラ王山にて開催され、出席者44名・委任状254名の計298名により、本総会は成立しました。審議に先立ち、議長にジーツープランの芝川豊氏を選出し、下記の議案を審議いたしました。

- 議案1：2011年度支部事業報告の件
- 議案2：2011年度支部収支決算の件
- 議案3：支部役員改選の件
- 議案4：2012年度支部事業計画の件
- 議案5：2012年度支部収支予算の件

各議案とも慎重審議の結果、満場一致で承認されました。本年度支部事業計画の議案4に関しては、総会に出席されなかった会員諸氏にその骨子を報告いたします。

本部事業計画の中でも支部活動の充実は極めて重要である。特に以下の課題を積極的に推進していきたい。

- ・技術交流会および賛助会員の皆様の協力と建築学会の先生方や行政および他団体の方々からのご指導をいただきながら、支部会員にとって役に立つ活動と社会に貢献できる活動を推進していきたい。
- ・中部支部の良き伝統である行政機関と協力した活動がありますが、本年度も各地域の構造計算適合性判定機関や各協議会への会員派遣、参画を行いながら、その成果をHP等により、会員に還元できるようにしたい。
- ・長年の課題である構造設計者の報酬改善についても、経済環境が厳しい状況ではあるが、会員一丸となって取り組んでいきたい。

また、中長期的な重要課題として、これからの中部支部を担う若き構造設計者の育成のあり方を考え、若手会員の増員活動と若者が率先して集える支部運営を展開していきたいと考えている。

総会終了後の第2部では、日本建築構造技術者協会会長の金箱温春様をお招きし、「構造設計者・JSCAの現状とこれから」と題して、約2時間にわたり記念講演を戴きました。構造設計者が抱えるいろいろな問題点を多方面の角度から語られ、参加者の皆様は興味深くその内容を拝聴することができました。以下にその概要を紹介いたします。

・昨年度の3.11震災直後にJSCAでは積極的に活動が行われた。特に地元被災地である東北支部では、応急危険度判定後の非木造建築物に対する継続使用の相談に活躍しました。また、液状化被害が多発した千葉サテライトでは、住民に対する液状化被害の相談を受ける活動を行いました。



記念講演される金箱氏

- ・会長として以下の3つの活動方針の説明をされました。
- 1. 東日本大震災を踏まえた建築物の耐震安全性確保の推進
地震被害を受けて、今後の検討活動や建築設計・構造設計活動に関する6つのアクションプランを発表しました。
- 2. 構造設計者と社会の関係を緊密にする
社会との対話を目的としたパンフレットを作成したが、その主旨を中心としたお話がありました。
- 3. 構造設計者の活力を高め、若者が憧れる職能を確立する
ここでは、架構の工夫、素材を生かした構造デザインについて、金箱会長が実際に設計された特に木造を絡めた構造デザインの紹介がありました。

記念講演の後、引き続き催された懇親会には、来賓、正会員、賛助会員等多くの方々に参加していただきました。宿里支部長の挨拶、ご来賓の方々のご祝辞の後、本日記念講演を賜りました金箱会長のご発声で乾杯し、和やかなうちに閉会となりました。

最後に、本総会の開催にあたり多大なご尽力をいただいた事業委員会各位にこの紙面をお借りして御礼申し上げます。
(文責 広報委員会)



懇親会風景

JSCA中部構造デザイン発表 報告

6月15日(金)、名古屋センタービル9階大会議室にて「JSCA中部構造デザイン発表会」を開催しました。参加者は78名と大盛況でした。

発表作品は8作品で、藤尾建築設計事務所の藤尾さん、竹中工務店の畔柳さん、福本さん、鈴木さん、清水建設の中村さん、名構設計の河村さん、飯島建築事務所の金子さん、日建設計の橋本さんが、それぞれ力作を発表されました。

会場の参加者は若い人も多く質問もたくさん出て有意義な時間になったかと思います。発表者の方は10月に京都で行われる本部の構造デザイン発表会でも発表されますので頑張ってください。

これを期に来年以降も開催し、構造設計を共有する場を提供できたらと思います。 (計画部会 盛本智夫)

JSCA中部構造デザイン発表会で発表された作品は、本誌「JSCA中部」で一年間かけて設計例として紹介させていただきます。第一回目は、藤尾さん・畔柳さん発表の2作品です。 (広報委員会)

～空が近づく大空間を持つ住宅～岡崎市N邸

藤尾建築構造設計事務所 藤尾 篤

本建築は、木造2階建（屋根の一部が鉄骨造）の専用住宅である。構造形式は、木造在来工法を採用し、耐力壁は構造用合板張りとしている。

直径8.39mの円柱形の平面形状を持ち、屋根は円錐形となっている。

1階部分は個室群が配置され、2階は円柱形の壁と、円錐形の屋根で囲まれた、大空間となっている。また、1階各個室からは、2階大空間に向かって階段室が立ち上がり、2階は街の路地のような空間になっている。

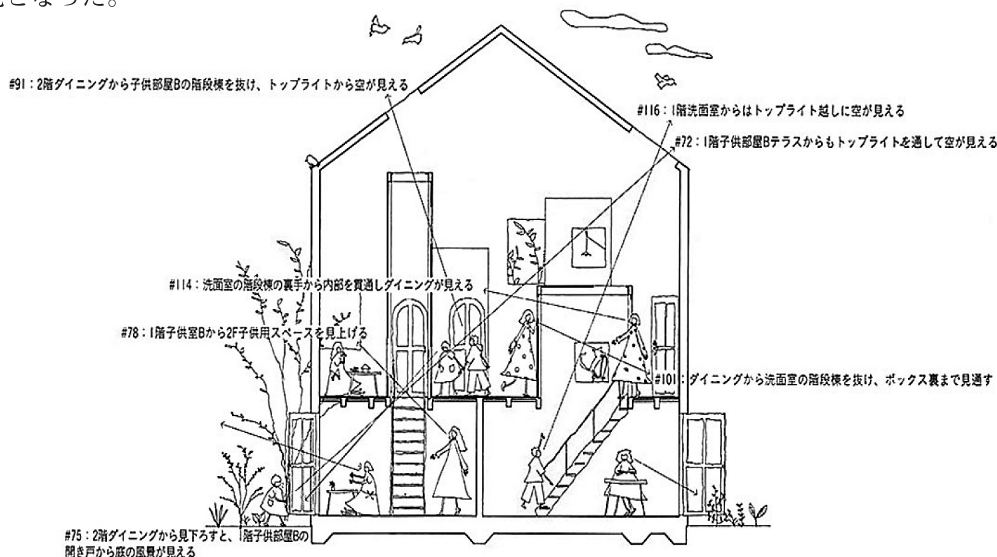
2階大空間には、トップライトより光を取り込んでいる。階段室塔にも、開口が配置され、トップライトからの光が、下階まで落ちるよう配慮されている。また、この階段室塔に関しても、薄壁によって構成することによって、重量感を軽減している。

各部からの視線を配慮し、4つの階段室棟の開口の位置や大きさによって、外部と内部、上階と下階それぞれのスペースや風景が混ざり合うように計画されている。

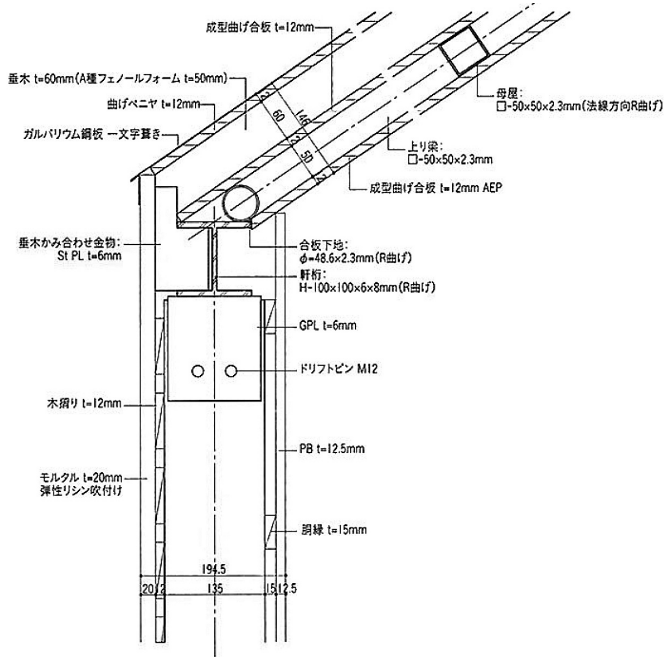
屋根構造は、大幅に屋根の層厚を削るために、フレーム状構造ではなく、シェルの状構造とする必要があった。そこで、建築構造用合板を使用した成形合板を、 \square -50x50x2.3 で組まれた枠材の両面に張り付けた、サンドイッチパネル構造を採用し、円錐底面をレール曲げ加工を施したH型鋼とした。その結果、構造の層厚を74mmに削減することが可能となった。



建物外観



施工状況



鉄骨フレームの組み上げ状況リング状の部分は合板面と角形鋼管の面が合うように測地線方向に調整されている。

レール曲げされたH型鋼のリング材より下は通常の木造であり、構造形式は在来軸組み工法となっている。

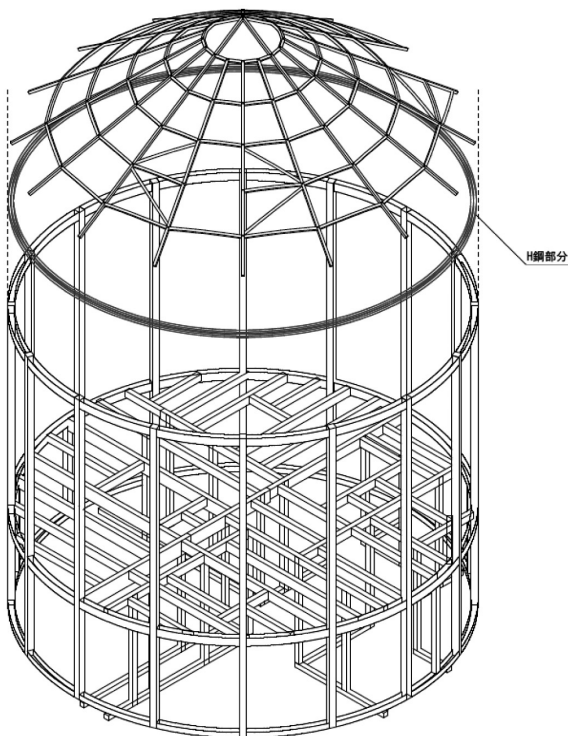
リング材より上は角形鋼管と成形合板のサンドイッチパネルによるシェル構造であるが、トップライトによって欠損する部分に関しては、周囲を角形鋼管により補強している。

H型鋼リングとの接合は、鋼管をH型鋼天端に溶接し、鋼管と合板の接点でタッピングビスにより接続している。

下部木造柱との取り合いは、ガセットプレートを割り込み、ドリフトピンで接合している。



軒レベルより順次外→内と順番に合板を張っていく。



設計概要

意匠設計 スタジオペロシテイ
 建設地 愛知県岡崎市
 用途 住宅
 規模 延べ床面積:145㎡
 高さ:10.0m
 階数:地上2階建

構造概要

木造2階建(一部鉄骨)
 べた基礎

構造材を意匠デザインとして用いた架構計画 みなと医療生活協同組合 高畑生協診療所

(株)竹中工務店 名古屋一級建築士事務所
畔柳 歩、今宮 実三郎、石原 清孝



写真1:全景



写真2:内観

本計画はみなと共立総合病院を中核とした名古屋市南東部を医療圏とするみなと医療生活協同組合の診療所建替プロジェクトの一環で、地下鉄東山線の終点である高畑駅北約500mに位置する高畑生協診療所の新築移転である。

建築計画にあたり、地域医療の中心地となるべく存在感を示すために内部と一体化したダイナミックな庇を設けており、構造材を放射状に配置した意匠として表現させることで内外一体の連続性を表現している。

●建築計画概要

外観に突出するシリンダー状の高天井の診察室を建物の中心とし、そこからずれを持たせた円弧上に広がるように処置室、待合室が配置される計画となっている。待合室上部には円弧上のトップライトを設け、自然光を取り入れることで屋内でありながら屋外的な待合空間としている。また、南面をガラススクリーンにより大きく開き、待合室と一体となるような庇を設けている。

●架構計画概要

地上2階建ての鉄骨造、X・Y方向ともにラーメン構造、基礎は直接基礎（浅層地盤改良）である。

待合室上部から庇にかけてカットT梁（CT-200×200）を用い、柱には建物外周部に角型鋼管柱（□-175×175）、南面ガラススクリーン面の露出部は丸柱（76.3φ）を用いた。

●カットT梁を用いた内外一体の意匠表現

中央のシリンダー状診察室から放射状に広がるカットT梁を意匠として表現し、ガラススクリーンを介して大庇とつなげることによって内外一体となった意匠とすることが求められた。

カットT材を梁として用いるにあたり、原則として両端ピンの小梁として用いることとし、その両側の架構でそれぞれラーメン架構を形成した。カットT梁は、応力、たわみ制限のみならず意匠上の存在感も考慮し、CT-200×200

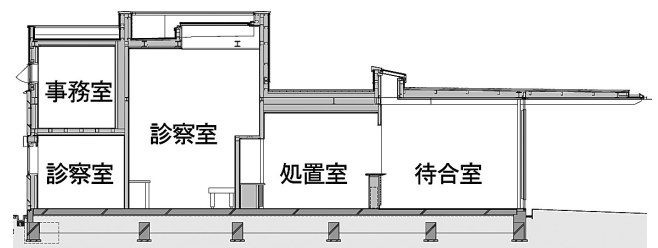


図1:建築計画（断面）

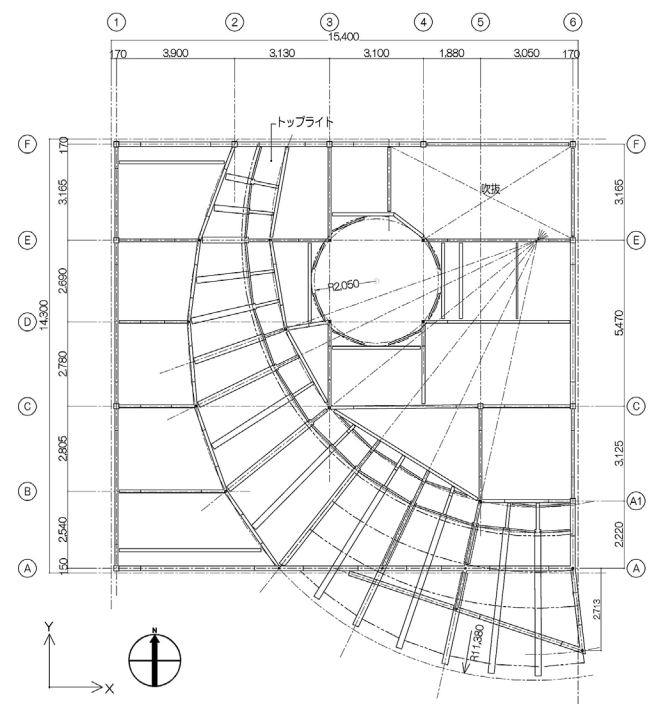


図2:屋根伏図

を用いた。ただし、カットT梁端部の円弧状のトップライト部分ではフランジ幅を100mmにカットし、トップライト開口率の向上を図った。また、両端剛接としてラーメン架構を形成する必要がある箇所ではカットT梁の上部にH形鋼の大梁を設け、ダミー梁としてカットT梁を直下に設けることで梁の見え掛かりの連続性および構造上の必要性能を確保した。

一方、建物南側へ跳ね出した大庇ではカットT梁を片持ち梁として用い、カットT梁がガラススクリーンを貫通するディテールとした。また建物外周部の柱に□-175×175を用いることで露出部の柱をスチールサッシに近い寸法(76.3φ)まで絞り込み、柱の存在感を消すことで建物内外が一体となった意匠を実現した。

上記に加え、中央のシリンダーでは高周波加熱による曲げ加工した胴縁(□-100×50)を用いることで曲面壁を構成し、シリンダー状診察室から大庇まで放射状に広がる構造物を意匠デザインとして用いた架構計画を実現した。

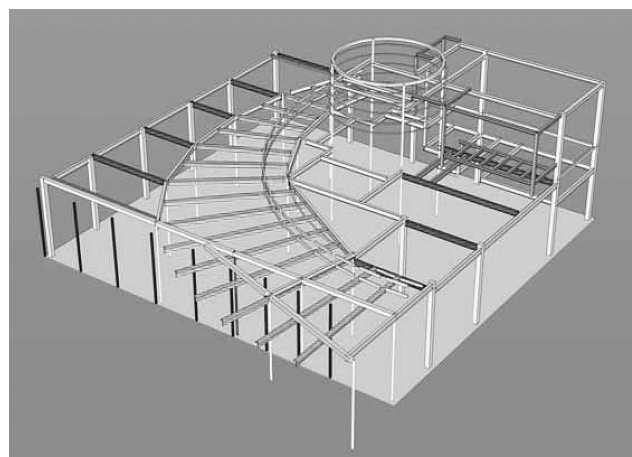


図3:架構イメージ図

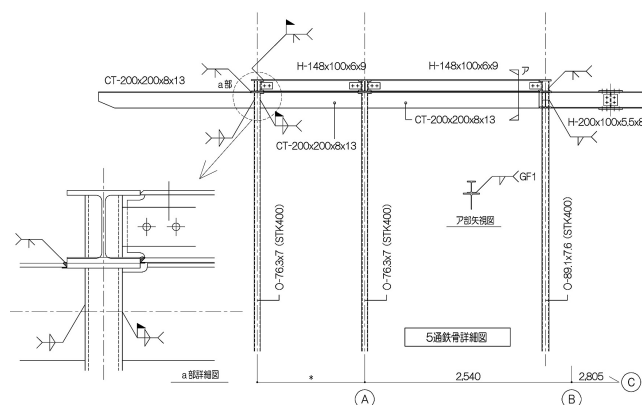


図4:庇およびカットT梁詳細図

作品(建築物)概要

鉄骨造 地上2階、高さ:5.9m 設計レート:1:1
 建築面積:238m² 延べ床面積:240m² 用途:一般診療所
 所在地:名古屋市中区高畑5丁目182
 工期:3.5ヶ月 竣工:2010年10月
 設計者:株式会社竹中工務店名古屋一級建築士事務所



写真3:カットT梁設置状況



写真4:トップライト



写真5:中央シリンダー

エコノミー & エコロジー

建研は“地球に優しい”をモットーに時代の要請に応える価値を提供します。

高強度・高耐久コンクリート製品でLCC(ライフ・サイクル・コスト)に貢献するPCa・PC(プレキャスト・プレストレストコンクリート)構造物です。

営業品目

●建築工事

PC組立建築工事、耐震補強工事、各種緊張工事、各種プレキャスト工事等の設計施工



株式会社 建研

代表取締役 宍戸 宏

本社・東京支店 東京都中央区日本橋堀留町1-4-8杉村ビル3F TEL03-5651-8270
 大阪支店 大阪市淀川区西中島5-8-3新大阪サンアルビル3F TEL06-6308-8612
 営業所 仙台 022-791-8750 千葉 047-460-0880 名古屋 052-262-3801
 滋賀 0748-62-2963 九州 092-451-4170 水口工場 074-862-2225

技術委員会 平成24年度活動方針

技術委員長 二宮 利治

昨年度から技術委員長を務めさせていただいております二宮でございます。

若輩でどうなることかと自身も心配しておりましたが、会員皆様のご指導により何とか務めることができました。心より感謝いたします。

昨年の技術委員会は、「構造技術者としての技術の研鑽」をメインテーマとし、下記の4項目を基本方針として活動を行いました。

1. 講習会・見学会の実施
2. 学会会員との交流
3. 建築行政関係者との交流
4. JSCA活動のPR

計画部会、鉄構系部会、コンクリート系部会、地盤系部会、木質系部会の各部会による見学会・講習会に加え、「東日本大震災における鉄骨系建物の被害」（名工大佐藤先生のご講演、鉄鋼系部会）報告会や「構造デザイン発表会2011応募作の支部会員向け発表会」（計画部会）の開催など、新たな企画にも取り組みました。

今年の活動も、前述の基本方針の下、各部会を中心に活発な地方部会との連携を踏まえた見学会・講習会の開催、学識経験者、行政担当者との交流を盛んにし、成果を発信してゆきたいと考えています。



ただ、各部会のコアメンバーが減少してきていたり、設計者サイドとメーカーサイドの人数バランスが偏っていたりする憂慮すべき状況も起きています。

設計者サイドが、製品や工法について、「ここをこう改善できないか」とか「こういう性能の製品がほしい」とかのニーズを提示し、それを製品なり工法なりに取り込んでゆくのがメーカーサイドの役割で、双方バランス良い人数で交流するのが理想といえます。

そこで今年は、各部会への参加者を増やしてコアメンバー充実を図るため、各部会の開催案内を会員全員に配信し、気軽に寄れる部会を目指したいと思っております。

また、とかくBCP（Business Continuity Plan）という言葉が話題になります。これまでは、構造体の耐震診断・耐震補強が私たちの身近なBCPでしたが、3.11以降は、耐震といっても構造体のみならず天井材や内・外装材、設備機器や配管と、建物を機能させるためのあらゆるものが対象となってきています。昨年は本部で「二次部材・仕上げ材の耐震安全性検討WG」が立ち上げられて、近々、「二次部材・仕上げ材の耐震性確保に関する情報整備と提言（仮題）」という形で成果が公開されると聞いています。その成果を支部で広めてゆくことも技術委員会の重要な仕事と考えています。

本年もご指導のほどよろしくお願いいたします。

事業委員会の活動方針

事業委員長 池尾 昭浩

JSCA中部支部事業委員長の池尾昭浩です。よろしくお願いいたします。

本年度も昨年度同様、JSCA 庭をはじめ、見学会・研修会等を事業委員会の力を合わせて行っていききたいと思います。

昨年度は、6月にJSCA庭を行い、定員を超える参加希望者があり今後皆様様の期待に応えられるような魅力ある企画を考えていきたいと思っております。また、講演終了後に行った懇親会では講師の方を中心に講演の時には聞けなかったお話を聞いたり、参加者の方々のコミュニケーションを図る場として活用して頂いていると思っております。

見学会につきましては、7月に「知の拠点先導の中核施設」の現場見学会を行いました。設計を担当された方のお話を聞きながらの見学会は大変有意義だと思っております。

見学会はその性格上、地域と時期を限定されるため、なかなか多くを開催できませんがこの地域にある興味ある建物を探して随時行っていききたいと思います。



講習会等は、本年1月に「若手構造技術者を対象にした育成講座」を初めて行いました。この講座は今回が初めてであり、開催するに当たっては手探りの状態から企画しましたが事業委員の実行委員の努力とアドバイザー・インストラクター役のJSCA中部支部の諸先輩の方々の協力により参加者はもとより参加者の所属事務所の方々からも大変好評をいただきました。本講座につきましては今後もJSCA中部の年間行事の柱となるよう継続して開催したいと思っております。

その他、講習会等につきましては、タイムリーな話題を模索し、より多くの方々に参加していただけるような企画をしていきたいと思っております。

また、毎年行われる年次総会・新年互礼会での講演会では、普段の実務に直結した話題から構造とは離れたいっつもは接しないような話題までいろいろと興味を引く講演会を行っていききたいと思います。

事業委員会で行う行事を一層魅力有るものとするためには、会員の皆様のご意見を伺っていくことが大切なことだと思っております。

多くの方々にご参加頂ける行事を数多く開催できるようにしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

広報委員会の活動方針

広報委員長 大橋 智樹

広報委員長の大橋です。

昨年度に引き続き、広報委員長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

昨年度、広報委員会では、中部地区の広報紙「JSCA中部」88～91号の計4回の発行を行いました。本誌「JSCA中部」では、中部地区の建物の設計例、施工中や竣工した建物紹介、委員会活動・支部活動の報告、講習会・見学会の報告等を掲載しました。中部地区発信の広報誌ですが、JSCA発行誌「STRUCTURE」と同時に、全国のJSCA会員の皆様に配布させていただいているとはご存知のことと思います。身近な情報を基本とする広報誌ですが、全国の会員の皆様に、中部地区の活動を知っていただける媒体として貴重な存在です。今期も、この広報誌には力を注いでまいります。

昨年発行の91号では、若手技術者育成講座に参加された多くの方から感想をいただき、紙面に掲載させていただきました。実直で新鮮な気持ちが伝わってくる内容であったと感じています。若い設計者の方々の意見や感想を今後も多く掲載してゆきたいと考えております。



中部支部のホームページ再構築につきましては、引き続き取り組んでおります。各委員会、部会の活動報告や講習会の告知、報告等タイムリーな情報を提供、掲載できるように注力してゆきたいと考えます。なお、JSCA会員の皆様の中で、HPに興味をお持ちの方、お手伝いしてもいいよとお考えの方、ワーキンググループへの参加をお待ちしております。

最後になりますが、広報誌、HPへの執筆は、その都度、会員の皆さまにお願いしております。紙面充実は、ボランティア活動の成果そのものです。ご多忙の中、原稿執筆、取材のご協力を快く引き受けいただきました会員の皆様に、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

また、広告掲載の面から広報協賛の支援をいただいております技術交流会・賛助会員の各社の皆様にも改めて御礼申し上げます。

今年度は、広報委員として新たな3名のメンバーに参加いただきました。新鮮な目線で気持ちも新たに、JSCAの活動を広く発信してゆけるよう取り組んでいきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

耐震診断・行政懇談会の活動方針

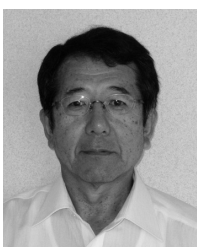
耐震診断・行政懇談会担当 加藤 工匠

前期に引き続き今期も「耐震診断・行政懇談会担当」を務めさせていただきます加藤工匠（たくみ）です。

東日本大震災から1年半が経過しようとしています。至近に東海・東南海地震の発生が危惧され、当地域も少なからぬ被害を受けることが想定されます。巨大地震に備える準備は喫緊の課題です。耐震診断・耐震改修は公的支援の充実とともに着実に進んでいます。

このような背景の中、耐震診断関係は直接業務を担当している訳ではありませんが、行政への協力として会員の皆さんに協力して戴いています耐震診断・サポートセンター・構造寺子屋（構造技術者養成）・名古屋市栄地下街の「名古屋市住まいの窓口の『名古屋市耐震相談窓口』相談員」等の活動を行っています。

一方、行政懇談会は建築確認審査等を行う行政機関等とJSCA中部支部の情報・意見交換を行う場として「愛知県・名古屋市・愛知県建築住宅センターおよびJSCA中部支部」の間で年1回定期的に開催している会合です。



2007年の建築基準法改正以来、実務に係る規定制定等が矢継ぎ早に行われています。また、昨年の東日本大震災での二次部材の被害・液状化被害・津波被害の学習から設計基準・通達等が早晚出されると思います。行政機関等との情報・意見交換は肝要であります。

今年の行政懇談会は「東海・東南海地震に備える。その他」について情報・意見交換する予定です。今年度も8月上旬に開催を予定しています。

会員の皆さんから意見交換の要望等がありましたら、小生または事務局まで連絡いただきますようお願いいたします。

中部支部は行政機関と最も良好な関係を有している支部の一つです。皆さんからのご意見を戴き活性化を図りたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

中部支部 平成24年度組織構成

支部役員会

本会理事 宿里 勝信 (名城大学)
 支部長 宿里 勝信 (名城大学)
 副支部長 石井 和彦 (日総建)
 山崎 暢 (清水建設)
 支部幹事 池尾 昭浩 (池尾設計事務所)
 石原 清孝 (竹中工務店)
 大橋 智樹 (大成建設)
 小田 一之 (O.D.A)
 加藤 工匠 (浦野設計)
 河野 秀生 (大林組)
 二宮 利治 (日建設計)
 羽入田 茂 (鹿島建設)
 芝川 豊 (ジーツープラン)
 藤原 哲弘 (藤原構造建築設計事務所)
 前田 嘉彦 (共栄建築設計事務所)
 永田 芳博 (永田構造デザイン)
 支部監査 伊東 正 (竹中工務店)
 服部 明人
 顧問 大塚 一三 (河合松永建築事務所)
 藤田 良能 (飯島建築事務所)
 事務局 小川 浩信 (伊藤建築設計事務所)
 土田 崇仁 (伊藤建築設計事務所)

技術交流会

会長 前原 勝明 (旭化成建材)
 副会長 川畑 久輝 (フジモリ産業)
 同上 中西 広始 (縣鉄工)

技術委員会

委員長 二宮 利治 (日建設計)

計画部会

主査 盛本 智夫 (盛本構造設計事務所)

鉄鋼系部会

主査 杉浦 盛基 (日建設計)

コンクリート系部会

主査 牧野 章文 (竹中工務店)

地盤系部会

主査 河野 秀生 (大林組)

木質系部会

主査 中野 稔久 (中野建築構造設計)

耐震診断・行政懇談会担当

担当 加藤 工匠 (浦野設計)

事業委員会

委員長 池尾 昭浩 (池尾設計事務所)
 副委員長 末吉 直樹 (大林組)
 委員 伊東 正 (竹中工務店)
 大野 勝由 (野口建築事務所)
 川端 憲敏 (建物蔵部)
 斎藤 正 (三菱地所設計)
 下野 耕一 (竹中工務店)
 田中 初太郎 (清水建設)
 七瀬谷 茂 (ストラクチャー・ナナ)
 橋本 幸治 (日建設計)
 盛本 智夫 (盛本構造設計事務所)
 山崎 暢 (清水建設)
 山本 享明 (名古屋女子大学)

広報委員会

委員長 大橋 智樹 (大成建設)
 副委員長 吉原 和宏 (日建設計)
 委員 家田 学 (竹中工務店)
 河登 健太郎 (竹中工務店)
 土田 崇仁 (伊藤建築設計事務所)
 山崎 俊一 (ピーディーシステム)

岐阜部会

部長 芝川 豊 (ジーツープラン)

三重部会

部長 藤原 哲弘 (藤原構造建築設計事務所)

北陸部会

部長 前田 嘉彦 (共栄建築設計事務所)

静岡部会

部長 永田 芳博 (永田構造デザイン)



地盤対策、維持補修工事の
新時代を拓く

地盤改良工事、コンクリート補修工事
軽量盛土工事 グラウト充填工事



株式会社 エステック

Special Construction Works by ESTEC inc.

名古屋支店 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南 2-14-19 Tel 052-566-3022 Fax 052-566-3291

本社 〒551-0021 大阪市大正区南恩加島 7-1-55 Tel 06-6556-2058 Fax 06-6556-2069

東京支店・大阪支店・四国営業所・福岡営業所 <http://www.soc-estec.co.jp/>